e-dream-s 通信

No.121 発行：2011 年 5 月 8 日　特定非営利活動法人　イー・ドリームズ

カンボジア・プロジェクトのために現地で準備を進めている一行からの嬉しいニュースをお届けします。お楽しみ下さい。また、震災について当日の様子などの報告が寄せられています。

目　次

１．	From Cambodia	中川　房代	p. ２
２．	カンボジアに明治維新はくるのか？ あるいはカニヤさんのこと	辻　　荘一	p. ５
３．	国際空港で思うこと	井川　好二	p. ７
４．	カンボジアツアーのおみやげ	飯田　佐恵	p. 13
５．	学ぶということ	塚本　美紀	p. 16
６．	復興への道	山田　昌子	p. 17
７．	「東日本大震災」を経験して	須賀　幸恵	p. 18
８．	震災を思い返して	豊島　有里	p. 19
９．	地震と原発	志村　洋子	p. 20
10.	速報　英語教科書支援プロジェクト調印式（覚え書き交換式）		p. 21

カンボジアの国花「ロムドゥオル(Rumdul)」。高さが 8 から 12 メートルの木に咲く黄色みがかった白い花。夕方から夜にかけて、良い香りを放つ。画像 http://www.aseansec.org/18203.htm

From Cambodia

中　川　房　代

ゴールデンウィークを利用して、「カンボジア・プロジェクト」進行のため、辻代表理事、井川顧問、塚本理事、飯田理事とともにカンボジアに来ている。今日は5月7日、滞在5日目。

今回カンボジアを訪問したのは、今年2月に行われた、カンボジアでの英語教育学会 CamTESOL 2011 に参加した折、2つの場所を訪問する機会を得たことで、プロジェクトの具体化を早急に進める必要があると考えたからだ。2つの機会とは、プノンペン郊外の学校と ACE(Australian Centre for Education)への訪問である。

私自身、過去に参加した CamTESOL の Site Visit で、首都プノンペン市内にある優秀な学校を訪問した経験はあるが、プノンペン郊外の「普通の学校」に行ったことはなかった。日本の大学に留学していた Ponleu さんのお父さんが地元で校長をされていると聞き、是非この機会に、とお願いして、訪問が実現した。その学校で英語の授業を参観させていただき、校長先生、英語の先生とのミーティングも持つことができた。その時気づいたのは、その学校では、教科書を持っていない生徒が半数いたことだった。帰国後、その学校の生徒への教科書支援を、e-dream-s のプロジェクトにできないかと考え始めた。

ACE については、e-dream-s がカンボジアに関わるようになって以来ずっとお世話になっている。Director の Louise さんからは、私たちがカンボジアで教育支援のプロジェクトを始めることに関して、いろいろとアドバイスをいただいてきている。加えて、2月にお会いした際には、女子の大学就学支援プロジェクトを行っている方をご紹介いただいた。2月にはその方に会うことはできなかったので、次回は是非、と思っていた。

今回のカンボジア訪問では、3つの地域で以下の7つを行う予定で、カンボジアに来ている。

＜プノンペン＞

(1) ACE 訪問：Louise さん、女子学生の支援プロジェクトに関わっている Ms. Kim Henry とのミーティング

(2) 女子学生支援プロジェクトの中心となっている寄宿舎への訪問

(3) これまでコンタクトのあった方々とのミーティング

Mr. Kagnarith Chea

Sokhom 理事の友人で、e-dream-s の活動に協力してくださる方、現在は ACE の教師兼マネジメントも担当

Mr.Chariya Ear、Mr. Tea Seanghy

在日カンボジア留学生協会 CSAJ (Cambodian Student Association in Japan)の東京支部の元リーダー

＜シェムリアプ＞
(4) シェムリアップでの女子学生支援プロジェクトの可能性を探る

＜Batheay 地区：プノンペン郊外＞
(5) Ponleu さんのお父さんが校長をされている学校訪問と授業見学
(6) その学校での「教科書支援プロジェクト」を開始するためのミーティング

予定は順調に進み、既に(1)～(4)までが終了し、(5)～(6)の教科書支援プロジェクト開始のための学校訪問を残すのみとなった。

この 4 日間で、たくさんのカンボジア人、カンボジア在住の外国人、日本やアメリカなどの留学経験のあるカンボジア人、など様々な人たちに会って、話をした。私自身は、5 度目のカンボジア訪問になるが、年々、来る度に新しい建物が建っており、人々の暮らしぶりや社会にも変化を感じる。

が、それでも学齢期の子どもが充分な教育を受けられているとはいえない状況はまだ多くある。大学教育についても、都市の郊外や都市からかなり離れた地域では、大学に通うことが難しい現状もある。特に女子生徒は、男子に比べ、大学に入学することが難しい。それは寮がないこと、都会でアパートに一人暮らしをすることを親が許可しない、など、これまでの訪問でもわかっていたことであるが、改めて話を聞くと、まだまだ現状は厳しく、それを改善するには、打破しようとする意思、資金、時間が必要だと感じる。

そんな中で、日本やアメリカなどへの留学経験のある若者が、元気に頑張っている。自分たちの経験を生かし、中高生に英語を教える仕事や、日本への留学の支援する仕事に就き、自分たちより若い世代の発展のために努力していることも確認できた。また、シェムリアプでは、Pannasastra University of Cambodia（注：Pannasastra の綴りは、全ての n、前から 2 番目と 3 番目めの a には~がついている)を訪問したが、この大学は the first international university で、教育省の元大臣が建設した私立大学で、英語を重視し、授業は全て英語で行っているそうだ。詳しいことは後日に書くが、大学のカリキュラムもチャレンジングでユニーク、優秀な人材を社会に送り出しているようである。そんな若者を、e-dream-s が支援していけたら、と思う。この訪問を機に、奨学金プロジェクトの具体的な実施計画を考えていく予定である。

まだツアーの途上であり、ツアーの内容や成果をまとめるのは、帰国後にしっかりとやっていきたい。次回 6 月末予定の理事会の中心議題として、きちんと論議ができるように準備をしていく決意である。

↓　Pannasastra University of Cambodia で（右から Director の Mr. Phann Keara さん、Assistant Director の Ms. Nguon Rothsophal さん、辻代表理事）

カンボジアに明治維新はくるのか？

あるいはカニヤさんのこと

辻 荘一

カンボジア、シェムリアップにある Relax & Resort Angkor Guesthouse は、ホットシャワー、冷蔵庫、エアコン、クイーンサイズベッド付きでシングル一泊９ドルからと格安で、主に日本人バックパッカーが利用する宿である。私としてはもう少し払っても「ホテル」に泊まりたいところだが、学生やバックパッカーのための宿としては必要十分と言ってよいだろう。

ここで働くカニヤさんは２０台半ばのカンボジア人女性である。てきぱきと日本語で施設の案内をしてくれる。次の目的地 Pannasastra University of Cambodia までのトゥクトゥク(バイクタクシー)を待つ間、なかなか立派な日本語を話す彼女に、なぜ日本語を学ぼうと思ったのか聞いて見た。

真ん中がカニヤさん

「私が８才の時に、村に日本人観光客がやってきてキャンディーをくれたんです。」とカニヤさん。
「その時のキャンディーの味と日本人の親切さが忘れられなくて。」

ゲストハウス周辺はアンコールワットを目当てに世界中から訪れる観光客で賑わっていて今はとても「村」などとは言えないところだが、おそらく当時は農村地帯で今よりもずっと貧しかったのだろう。ほんの十数年前である。

ACROSS の初代会長である押村先生は進駐軍に貰ったコンビーフの味が忘れられなかったことが英語の勉強を始めたきっかけだったそうだが、その話を彷彿とさせるエピソードである。これは６０年近く前の話。

日本に行って見たいですかと聞くと、
「すごく行って見たいです。今一生懸命働いています。」
日本で勉強したり働いて見たいですかという質問には、

「私には日本人のようには働けません。無理です。」
え？という私に、微笑みながら
「日本人は本当にすごく仕事ができて、働く時間も長いです。私には…出来ません。」

カニヤさんの日本語は、少なくとも話をする上では支障はなく、高校でも大学でも一生懸命勉強しました、というだけのことはあるレベルである。また、責任者が別にいるにしても、多くの宿泊客が出入りする５０人規模の施設を切り盛りしている。仕事ができないということはないはずである。

もちろん、カンボジア人あるいはカンボジア人女性が皆カニヤさんのように感じている訳でないだろう。また、日本人相手に社交辞令ということもある。さらに、次の目的地である Pannasastra University of Cambodia のように、リベラルアーツを中心に全ての教育を英語で行い、世界で活躍できるカンボジア人を作ろうとしている若い私立大学もある。しかし、例えば明治時代初期にある程度教養のある日本人が同じことをいうだろうか？

私たちはカンボジアの人びとの親切で控えめな人柄に惹かれて訪問を重ね、お節介ながらも女子学生のサポートプログラムを始めようとしている。彼女たちに将来カンボジア社会を変革し発展させるという希望を託して、あるいは社会変革や発展とまでいかなくても、男性と伍してカンボジア社会で活躍する人間になって欲しいという気持ちがある。しかし、私たちを惹きつけるその人柄そのものが、ひょっとするとカンボジア社会の発展の妨げになっている可能性もあることを感じぜずにはいられなかった。

私は、暗黒のポルポト時代が終わったカンボジアを日本の明治維新のような時期にあるという、イメージを勝手に抱いてきたが、それぞれの国が固有の歴史と文化を持つという事実を十分な斟酌することなく、安易に他国のイメージを作り上げてはならないということを改めて認識した１０分間であった。

iPad で入力
５月７日早朝
プノンペン、ヒマワリホテルにて=

国際空港で思うこと

井川 好二

人は海外を体験することによって、何を学ぶのだろう？

海外語学研修を実施したり、文化を学ぶ旅を企画したり、海外での就業体験を勧めたりするのが仕事なので、たまには、そういう体験から日本の学生たちは、何を学ぶのだろう、あるいは、もっと一般的に云って、海外体験で人は何を得るのだろう？と考えてみる。

空港内を移動する：映画「マイレージ、マイライフ」(2009)[1]

むろん、何を学ぶかと云う設問は、経験により何かを学ぶことを前提にしているが、ほんとにそうか？と云うこともある。経験しても学ばない場合だってある。

また、理解することと学ぶことは違う、と云うこともあって、学ぶとは、その経験によって前向きに自分を変えること、なのだが、今回はそこまで厳密な議論という訳ではない。

[1]http://img2.timeinc.net/ew/dynamic/imgs/100106/Up-Air-Clooney-Kendrick_400.jpg

航空機内：映画「Knight & Day」(2010)[2]

大雑把にいえば、人は海外を体験することによって、異なった文化、つまり異なった生活・社会習慣や価値観、を持つ人々に触れ、今まで無意識に当たり前だと思ってきた自分自身の文化が、当たり前のものではなく、随分特殊なものであり、それが特殊であるがゆえに、愛しいと感じる性質のものであることがわかるのである。

日本人とは、こういう人たちだったのかと、国の外に出て初めてわかり、そういう日本人が情けなく思えたり、誇りに感じたり。しかし、日本人を育んだのは、この日本の土地と文化以外になく、だからこそこの国が貴重に思えてくるのである。

しかし、今回考えてみたいのは、そういう自文化を客観視する切っ掛けとしての、他文化ではない。海外体験の出発点としての国際空港である。そこには、自文化も他文化も含まれるが、「普遍的な文化」が支配的で、人はその普遍性を享受する新たな自分に気付くことにより、自文化の特殊を思わざるを得ないのである。

むろん、「普遍的な文化」とは、矛盾を含んだ云い方であって、個別で特殊な「文化」に対して、世界中で普遍的と受け入れられるものは、司馬遼太郎に習って、「文明」と呼ぶべきである。従って、本稿は、航空機文明の一環である「国際空港文明」についての論考である、と云うことになる。

「文明」とは、現在の地球上のどこへ行っても同じで、多くの人々がその価値を普遍的に認め、それに参加したいと願うシステムのこと。航空機に乗る場合には、誰もが「航空機文明」参加することになる。

司馬遼太郎がどこかでこういうことを云っていた。「航空機」は「文明」であって、この文明に参加するにはただ、チケットを買って飛行機にのったら、シートベルトをしめれば良い。

空港もそういう「航空機文明」の一部である。むろん空港がなければ、飛行機文明がなりたたないし、

[2]http://bluraymedia.ign.com/bluray/image/article/113/1137510/knight-and-day--20101201012510693.jpg

空港を前提としてこの文明は発達した。

定義を云えば、国際空港（International Airport）とは、航空機発着に必要な通常の空港設備以外に、国際航空路線就航に必要な設備が整っている空港のことである。国際航空路線に必要な設備とは、"CIQ"[3]と呼ばれる税関、出入国管理、検疫体制のことであり、英語のCustoms, Immigration, Quarantineの頭文字をとったものである。

国際空港には、さまざまな人々が往来する。

その国の人が海外へ飛行機にのって出発したり、海外の人がその国へやって来たり。言葉も習慣も違う人々が、すれちがう。

そんな国際空港で、大事なことは、ユニバーサルなルール。一人一人が属する文化を越えて、誰もが納得して従うルールが必要で、これがないと混乱する。この国際空港のユニバーサルなルール、つまりグローバル・スタンダードが、「航空機文明」の一環と考えられる。

別の角度から云えば、文明とは、世界中の誰もが、便利でかっこいいと感じて、参加したいなと思う生活様式ことで、そう思う人の誰でもが、比較的簡単に参加できるものでもある。歴史的に云えば、交通手段としての馬、最近の例で云えばジーンズであると、司馬は云う。

もちろん、搭乗前にチケットを買って、乗ったらシートベルトを締めるだけでなく、機内や空港ほとんどエリアで禁煙とか､離着陸の前後は電子機器の使用はダメとか､詳しく云えばいろいろあるが･･･

今回は、航空機文明の起点としての最近の国際空港を考えつつ、その普遍性から日本の特殊性を考えているのである。

この文明の大きな特徴の一つに、Travel Light[4] ということがある。空飛ぶ乗り物、飛行機に積める荷物の量には制限があるため、持ち物が少ない旅客が歓迎されることになっている。例えば、アメリカのDelta[5]航空国内線では､乗客の機内持ち込みできない荷物､例えばスーツケースは有料なのである。

空港内でも、荷物の多い旅行者は、自分が重たい目をするだけではなく、いろいろな局面で不利な状況に追い込まれるようになっている。例えば、９・１１事件 [6]以来厳しくなった機内持ち込み品の検査では、荷物の多い客は、とても時間がかかる。高齢者にも不親切なシステムとも云える。

映画「マイレージ、マイライフ」(Up in the Air) (2009) の中のセリフに、

---

[3]海外渡航手続きの総称。C は税関 (Customs) ，I は出入国審査 (Immigration) ，Q は検疫 (Quarantine) の頭文字を取ったもので，出入国の際必ず受けなければならない手続き。【ブリタニカ 2008】

[4] travel light travel with a minimum load or minimum luggage. (OAD)

[5] Delta Air Lines(米国の)デルタ航空.[ジーニアス英和大辞典 大修館書店]

[6] 2001 年 9 月 11 日に起こった同時多発テロ。【現代用語の基礎知識 2008】

Travel Light：映画「マイレージ、マイライフ」(2009)[7]：
飛行機出張はキャリーケース 1 つにすべきと **Natalie** に指導する **Ryan**。

> **Ryan Bingham:** [on getting through airport security] Never get behind old people. Their bodies are littered with hidden metal and they never seem to appreciate how little time they have left. Bingo, Asians. They pack light, travel efficiently, and they have a thing for slip on shoes. Gotta love 'em.
>
> **Natalie Keener:** That's racist.
>
> **Ryan Bingham:** I'm like my mother, I stereotype. It's faster.[8]

「年寄りは、(ぐずぐずして)自分に残された時間を大切にしようと云う気がない」などと、不謹慎なことを云うが、「手荷物検査では、アジア人の後ろにつくといい。軽装で要領がよくて、靴滑りも持っているから」と、航空機文明からすると、アジア人の評価は高いようだ。ついでに云えば、一般的にずっと体重も軽い。Travel Light である。

2011 年 5 月のカンボジア行で、この Travel Light スタンダードに従ってみた。
映画の主人公たちに習って､2 月にロスアンジェルスで買った Samsonite の車輪付きキャリーケース。機内持ち込みもできる。これが快適。小さくてもよく入り、軽い。なかなか優秀である。

---

7 http://ramascreen.com/wp-content/uploads/2009/08/Up-In-The-Air2.jpg
8 http://www.imdb.com/title/tt1193138/quotes

映画「The Terminal」(2004)；JFケネディ空港から出られなくなった [9]

もう一つ、映画からの例をあげると、トム・ハンクスの「ターミナル(The Terminal)」(2004)。東欧からの旅行者が、JF ケネディ空港（ニューヨーク）に到着したが、母国の政治状況の急変により、持っているパスポートが無効になり空港から出られなくなると云う設定。

日本人的に考えれば、ありえない設定かもしれないが、日々激動している世界的にみればありえる話であろう。CIQ で云えば、Immigration に関連している。

主人公の寄る辺ない気持ちを味わったのは、去年の 11 月、スウェーデンでパスポートを盗まれた時。ストックホルムの日本大使館で帰国用に仮の書類をつくってもらい、帰路に着いた。いつもは何でもない空港のエアライン・デスクや Immigration のカウンターが、やけに高く思えた。

もう一つ、最近の国際空港のグローバル・スタンダードをあげる。空港内での無料WIFI[10]の完備であ

9 http://lancemannion.typepad.com/photos/uncategorized/the_terminal.jpg
10 無線ＬＡＮ（ラン）（Wireless Local Area Network）ケーブル（線）を使わずに電波や赤外線によっ

る。つまり、無線LANによるインターネットの接続が、無料であること。

日本や世界の一部の、けちくさい空港を除いて、アジアでもアメリカでも、多くの空港でインターネットの使用が無料だし、自分のラップトップ持参なら、自宅や自分のオフィスのいるようなインターネット環境が得られる。英語のみならず日本語でもメールをうったり、書類をつくったりすることの多い日本人ビジネスマンには、ありがたい世界基準である。

Free WIFIさえあれば、長い乗り継ぎ便の待ち時間が苦にならない。航空会社の姑息な顧客獲得戦略で最近進められているハブ空港 [11]化も、このWIFI設備があってこそ、である。ちなみに、「ハブ」とは自転車などの車輪の真ん中にあるスポークが集まっている部分。ハブ空港とは、そのハブのように地域の１つの空港に、他地域からの多くの航空便を集めて、スポークのようにその地域内の空港へ多数の便を飛ばすことである。

例えば、カンボジアのプノンペンへは、東南アジアのハブ空港の一つであるタイのバンコク空港へ先ず行き、そこからプノンペンへ向かう。

近頃、海外出張用に、軽くて早いラップトップを買った。MacBook AIR と云うが、電池も持ちも抜群。これさえあれば、Free WIFI のお陰で、世界中のどの空港でも、長い待ち時間に仕事が随分捗る。

ありがたいことである。(Saturday, May 7, 2011)

てコンピュータ同士を通信させるネットワーク（ＬＡＮ)。各コンピュータはアクセスポイントと呼ばれる基地局と無線で接続し、アクセスポイント経由で有線のＬＡＮやインターネットに接続するような構成が一般的。各コンピュータには、無線ＬＡＮアダプタという通信機器を取り付ける。現在出回っている製品の多くは、ＩＥＥＥ802.11ｂ／ｇまたはＩＥＥＥ802.11ａという規格に対応している。業界団体のＷｉＦｉ（ワイファイ）アライアンスによって相互接続性が保証されるとＷｉＦｉブランドの製品として認定される。[現代用語の基礎知識２００８]

[11] 国際線から国際線あるいは国際線から国内線へと乗り継ぎをするための拠点空港を国際ハブ空港という。成田、関西、中部の 3 空港は共にこの国際ハブ空港をめざして整備してきたが、新ソウル・メトロポリタン空港や香港のチェク・ラップ・コック空港の完成で、その座を奪われた感がある。このような背景もあって 2003（平成 15）年度からの「第 8 次空港整備計画」では、この 3 空港を国際拠点空港と改称し、そのうえ、3 空港を一体化のうえ民営化の方向を打ち出している。しかし、「成田の収益で関空の赤字を埋める」仕組みとして反発が大きい。ハブ（hub）とは、自転車の車輪の中心部にあるこしきのこと。スポーク（spoke）からハブに、またハブからスポークへと力が伝導することからこのようなシステムをハブ・システムあるいはハブ・アンド・スポーク・システムという。21 世紀初頭の超音速旅客機の就航する空港は世界に 6 カ所必要とされ、これをスーパー・ハブ、あるいはグローバル・ハブという。[現代用語の基礎知識２００８]

カンボジアツアーのおみやげ

飯　田　佐　恵

今回のツアー出発前に家族や友人から「私がカンボジアへ行けること」は一番のおめでたいことと言って送り出してもらった。

ツアー中は井川顧問、辻代表理事、中川副代表理事と塚本理事の皆さんのやさしく、細やかなお気遣いによって、いよいよ、今日の最終日を迎えられて、感謝いっぱいです。「私が体調を崩すことなく、無事に帰国すること」が家族や友人への大きなおみやげとなりました。

そして、もう 1 つ e-dream-s の日本で待っていてくださる皆さんへのすばらしいおみやげができました。それは、今日 5 月 7 日午前 11 時 5 分を以て、e-dream-s テキスト寄贈プロジェクトの覚え書きの交換が成立したことです。

e-dream-s のカンボジア英語教育支援のスタートが切れたことです。私自身がその場に立ち会えたこと、カンボジアの先生たちと一緒に喜びを分かち合えたことに心から幸せを感じました。

5 ヶ月後の 10 月、カンボジアの学校の新学期から、e-dream-s 寄贈の英語の教科書が使われることも決まりました。去る 1 月の合宿での e-dream-s 会議で、この学校の様子を聞きましたが、その通りでした。教科書を持っている子どもは数人で 2 人に 1 冊、3 人に 1 冊という現実を目の当たりにしました。

あの子たちが、新学期から新しい英語の教科書を一人一人が広げて笑顔で学習することができるのです。その喜んでいる子どもたちを想うとワクワクして胸が踊ります。

贈呈式は、10 月 1 日か 10 月 3 日に決まりました。その日が来るのをカンボジアの子どもたち、カンボジアの先生と一緒に待っています。

2011 年 5 月 7 日　プノンペン　Himawari Hotel にて

学ぶということ

塚　本　美　紀

先日、Ｅさんのお通夜に参列した。７０歳になる前に肺がんで亡くなったＥさんは、３年程前まで、私の生徒だった。私の勤務する学校には、10代の頃、いろんな事情で学ぶ機会を持てなかった人が、毎年何人か入学してくる。Ｅさんもそんな人たちの一人だった。お通夜の会場には、趣味でよく撮影していたお花の写真と高校時代の成績表が飾ってあった。成績表には欠席、遅刻、早退の欄に０が並ぶ。一緒に参列した同僚と、「Ｅさんは出席皆勤だったもんねえ。」と話していると、Ｅさんの娘さんが来られた。「父は、高校を卒業できたことをとても誇りに思っていました。だから、この成績表を棺桶の中に入れてやろうと思っています。」と言う。きれいに保管されていた成績表が、Ｅさんの学校への想いを物語っている。

Ｅさんは真面目でとても優しい生徒だった。不登校気味の生徒がいると、「おいちゃんが一緒におってやるけ、授業受けてみらんか。」と声をかけてくれたり、勉強嫌いの生徒には、「予習しとかんと、また先生に叱られるぞ。まだ時間があるけ、今のうちにやっとけ！」と励ましてくれたりした。

英語の授業では、「先生、もう英語とかまったく使わんで生きてきたんで、いくらやってもなかなか頭に入りません。このポンコツ頭、どうしたらいいですかねえ。」と胡麻塩頭をげんこつでたたきながら言うこともあった。そう言いながらも、試験前には大切な所を何度も繰り返し勉強し、優秀な成績を修めた。またある時は、会話練習の時に生徒をファーストネームで呼ぶ私が、Ｅさんに対してはどうしても「Ｅさん」としか呼びかけることができないでいると、「先生、私のこともヒロツグと呼んでください。歳はいってても、私は先生の生徒なんですから。」と言って、皆を笑わせた。

ユーモアと思いやりのあるＥさんのエピソードを娘さんに話していると、「以前の父は、頭が固くて、気難しい、とっても頑固な人でした。でも高校に行って、ずいぶん変わったんです。」と娘さんが言った。茶髪の若いクラスメートが、話してみると案外真面目な少年だったり、派手に化粧をした女子生徒が予習復習を欠かさないことを見たりして、若者に対する偏見が減っていったという。

学ぶことは喜びであること、いくつになっても人は変わることができること、そんな大切なことを教えてくださったＥさんに感謝したいと思う。そして、教師としてそのＥさんのDNAを次の世代に伝えていかなければと思う。

復興への道

理事　山田昌子

またまた両親の話で恐縮ですが、リウマチ[12]を患っている母は、益々症状がひどくなっている。２週間程前、免疫異常のため、右腕の指から肘にかけて、ケロイドのようになった。普通は、異物や細菌が体内に入って来ても、免疫システムのお陰で健康な状態を保つことが出来るが、免疫機能に異常が起こると、思いもかけない症状が起こる。皮膚はただれ、これが人の腕かと思うような様相。その上、免疫低下のせいで、クリーム状の薬を塗ってもなかなか治らない。それを、父は-----少しずつ回復しつつあるとはいえ、ギラン・バレー症候群[13]で手が思うように動かないのに-----毎晩薬を塗り、包帯を巻き、母を支えている。右腕が痛み動かず、食事中でも食べ物やスプーンを落とす母を気遣い、励まし、サポートすることで、父自身も、励まされているようだ。父もまた、病のせいで常にけだるさが抜けず、一進一退の病、いらいらするばかりなのに、他の人をサポートすることで、一種の生き甲斐を見いだしているようにも見える。夫婦だからといえばそれまでかもしれないが、自分以外の人を思い、サポートすることで、却って励まされるということは、他にもあるのだと思う。

東日本大地震は、３月１１日に起こった。地震発生直後、まだ地震が起こったことすら知らなかった私のもとに、アメリカと台湾の友人たちから「大丈夫か？」と e-メールが届いた。その後、毎日、世界のあちこちの友人たちから、私の安否や地震・原発の被害を気遣う e-メールを受け取った。読みながら、思わず涙してしまう励ましの言葉もあった。恐らく e-dream-s や ACROSS のメンバーも同様の経験をされたと思う。私が無事だと知ると、彼らは自分の居住する地で「何かできることはないか？」と尋ねてくれた。義援金を送ったと報告してくれる友人もいた。そして、私は、世界のあちこちで、テレビや新聞では報道されない、バザーや義援キャンペーン、募金のための夕食会、励ましのビデオ作成等、様々な企画がなされていることを知った。

私自身も、何かしたい、しなければいけないと思った。関西にいて直接は何もできないけれど、できることをしたいと、多少ではあるが、勤務校の生徒会や街の募金に協力し、郵便局から赤十字への募金も送らせていただいた。それで十分とは思わない。是非 e-dream-s としても何かさせていただければと切望している。いや、何かしなければいけないと思う。何ができるか、わからない。でも、きっと、被害にあった人々を思い、サポートすることで、却って私自身が励まされるような気がする。そして、前向きに復興への道を共に歩んでいくことができたらと願っている。頑張れ、ジャパン。頑張れ、e-dream-s！

---

[12] 関節リウマチ（Rheumatoid Arthritis）は、自己の免疫が主に手足の関節を侵し、これにより関節痛、関節の変形が生じる代表的な膠原病の一つで、炎症性自己免疫疾患。http://ja.wikipedia.org/wiki/関節リウマチ

[13] ギラン・バレー症候群（Guillain-Barré syndrome）とは、急性・多発性の根神経炎の一つで、主に筋肉を動かす運動神経が障害され、四肢に力が入らなくなる病気。重症の場合、中枢神経障害性の呼吸不全を来すが、予後はそれほど悪くない。日本では特定疾患に認定された指定難病。
http://ja.wikipedia.org/wiki/ギラン・バレー症候群

「東日本大震災」を経験して

須賀　幸恵

３月１１日、大地震が起こった時、私は 6 時間目の授業をやっていました。平成 22 年度最後の授業でした。生徒たち（中１）は異常を感知してすぐさま机の下に潜り込みました。揺れは何度も襲ってきて、立っていることができない位のものもありました。初めての経験で、生徒達は恐怖のあまり泣きじゃくっていました。

鉄筋７階建ての校舎は、壁には亀裂が入り、スプリンクラーが作動して階段は水浸しとなりました。交通機関が停止し、復旧の見込みがたたないため、帰宅できない生徒 500 名余りを学校に宿泊させることとなり、非常用の水と乾パンを配布しました。夜は体育館に全生徒を集め、毛布や防災シートを配布して休ませました。一晩中ひっきりなしに子供を迎えに来る親が続き、私たち教員はほとんど眠らずに対応に追われました。

翌朝、非常用のおこわを食べさせ、お昼ごろ交通機関が復旧したのを見計らって、生徒を帰宅させました。予定されていた期末テストは中止、春休みは生徒登校禁止の措置を取りました。

私が今回の震災で感じたのは、大地震は起こった瞬間よりもその後の影響のほうが大変だということです。３月 12 日、くたびれきって帰宅すると、家の中は家具が倒れていてめちゃくちゃ。食料を買いにスーパーに行くも品物が少なく、まるで閉店セール後のような状態。ラーメンの棚、お菓子類の棚は空っぽでした。（何日か後に行くと、水、牛乳、ヨーグルトがなくなっていました）

震災後、一番つらく感じたのは、計画停電でした。私の居住区は合計４回停電がありましたが、夜間停電があると全く何もすることができません。７時からの停電の日には、８時ごろには布団に入って寝てしまいました。停電のため、パン工場の製造時間が限定されるため、今度は店頭からパンがなくなりました。

仕事から帰って（職場は千代田区のため停電はなし）地元の駅に着くと、停電のため街は文字通り真っ暗。闇夜に駅前デパートが不気味に浮かび上がっていました。こんな状態が続くと犯罪が多発するのではないかと不安を感じたのを覚えています。

４月の始めに愛知県の実家に帰省しましたが、町が明るいのに何よりも驚きました。中部電力は震災の影響を受けておらず、駅も町中も照明を落とす必要がありません。スーパーに出かけると、品物が溢れかえっていて「何て豊かなんだろう」とまぶしく感じました。ずっと食べられなかった念願の納豆も食べました。

また、愛知県では余震がなく、まるっきり平常な状態なのでびっくりしてしまいました。ときどきテレビに余震のテロップが入り、東海地方と関東ではこれほどまでに状況が違うのかと驚きました。

関東では今もあいかわらず余震が続いています。少しの揺れには動揺しないようになりました。夜中に近くの中学校の地震速報が作動するのが嫌です。新学期が始まり、表面上はいつもの生活が戻ってきたように見えます。けれど地震の影響で精神的に不安定になっている生徒がいたり、街や駅は相変わらず薄暗かったりしています。たまに大きな余震が起きると、あの日のことがフラッシュバックのように蘇ります。被災地から遠く離れた関東でもまだまだ震災の影が残っているので、被災地の方はもっと苦労を強いられていることと思います。

震災を思い返して

豊島　有里

３月１１日、その日私は学校にいた。地震は関東ではよくあることなので、「あれ。なんだか今回は揺れが大きいね」なんて呑気に同僚と言い合っていた。そうしていると揺れが一気に激しくなってきた。この時期は自宅学習期間だったので授業はなく、学校にいる生徒は、いつもより少なかったが、それでも部活動や自習に来ている生徒は７００人程いた。先生たちは一目散に生徒の安全確認に走った。幸いにも生徒たちは全員無事で、校舎にも大きな被害はなかった。職員室の TV をつけると東北地方で大きな地震が起こった事がわかった。しかし私たちはとにかく、生徒の安全を守る事や生徒を無事に帰す事を思うばかりで正直 TV なんて見ている暇はなかったのでまだ事の重大さには気付いていなかった。当日の JR の運休が発表されると生徒を含め私たちは学校に宿泊することになり、教員たちは、炊き出しの準備や防災用品の確認、カンパンと水の配布、寝袋代わりの断熱シートや毛布の用意などに追われた。保護者の方々には緊急携帯メール連絡システムで生徒の無事と、保護者の迎えがある場合のみ生徒を引き渡す旨のメールを送った。真夜中でも車で何時間もかけて迎えに来る保護者もいたが、とにかく JR が動いていなかったのでほとんどの生徒のお迎えは翌日になった。本校の生徒の通学エリアは数県に渡っているので学校に来るのにかなり苦労されたご家庭もあったようだが、最終的には生徒たちは無事に帰路につき、教員も自宅に帰る事ができた。

地震当日は必死で TV もろくに見ていなかったが、翌日に家に帰り TV を見るとこの国を襲った未曾有の事態に震えるばかりだった。地震の影響で春休み中は生徒の登校は禁止になり、終業式は中止になった。高校の卒業式のみかろうじて時間短縮で行う事ができたが、中学の卒業式は中高一貫校ということもあり中止になった。私の家は計画停電のエリアからは外れていたが、実家や多くの同僚の家は計画停電も経験したし、何より街が暗くなった。エレベーターや駅の表示などありとあらゆるものが今も節電されている。３月、４月は大きな余震や緊急地震速報も多く、不安な日々は続いた。私の直接の友人は被災していないが、友人の友人など、被災して困っているという話は多く聞いた。そして原発問題やそれに派生する多岐に渡る問題など、とにかく多くのことが起こり自分の人生観や価値観も地震の前と後で大きく変わったように思う。実際に被災地に支援に行った人の話を聞く機会もあったが、胸が締め付けられ本当にやるせない思いになった。

自分になにができるのだろうと考えたが、結局自分の仕事を、誇りを持ってすること、そして寄付をすることくらいしか今は思いつかない。そしてやはり、自分は教員であるので教育という形で被災者を継続的に支援したいと思っている。個人的には月々の寄付などという形を取りたいと思っているが、e-dream-s でも被災者支援プロジェクトが立ち上がると聞き、嬉しく思っている。自分の関わる団体で組織的に支援することができれば何よりだと思う。本校の生徒会などを見ていても生徒たちは、学生の自分たちに何ができるかを考えている。自分だからこそできることは何か、これからも考えて行きたい。この地震の事は決して忘れてはならない。正直地震やこの国が直面している問題に向き合うのがずっと怖かった。しかし、こうして原稿を書く機会を得て、地震の事を思い返すことで一歩進めるような気がしている。

地震と原発

志村　洋子

３月 11 日、家から車で 15 分の南房総の千倉町、農家を訪ね当て、「ごめんください」と玄関で声をかけると、中から家の人が「地震！」といって出てきました。庭先でゆら—リ、ゆら—リ、ゆら一りと揺れ、私は庭の入口まで戻って椿の木につかまりました。「おヽ、大きいな、コンテナ（収穫用の）につかまったですよ」と訪ねた 83 歳のご本人が横の畑から戻ってきました。招じられて家の中に入り、チェックをお願いしていた原稿の話をしている間、テレビの画面は走っている車を津波が呑みこみました。又大きく揺れ、皆で庭に出て様子を見ていると嫁さんが急くように車で戻ってきました。

もう一軒の家に行く約束が 4 時で、ちょっと時間があったので近くの千倉図書館に寄っていると、「津波予報で 10m の連絡が入り、ここは危ないのです」と職員の人が近寄ってきて言いました。「帰らなくちゃいけないですか？」と言っているのは懐かしい女子高校生 2 人。直ぐ家に戻りました。家は歩くと冬でも汗が出る山坂の上にあります。

その夜会合予定があり、電話連絡も取りづらく、残のガソリンを見て先ずは出かけることにしました。暗い道を車を走らせ、十字路の左手に白い車が止まっていて、見えづらいなあ、と思いながら通り過ぎてから、あ、ここには信号があったはずだ、と一帯の停電に気付きました。その夜は市の職員が発電機でロビーを明るくしてそこで会合をしました。後日聞いたところでは、千倉の海は今までにこんなきれいなことはなかった、というほど、引きが強く、ごみ一つなくなった海になったとのことです。

福島第 1 原発の状況をとらえるのには、原子力資料情報室、たんぽぽ舎からの配信、海外からのネットのニュースをできるだけ見ています。友人からの情報、お互いに交換、他へ転送。放射能のことで 3 人の知り合いが九州に疎開、移住していきました。一生で 2 回も「疎開」という言葉を身近に聞くとは考えもしませんでした。南房総市が受け入れた被災家族の自炊が始まり、少々の米、味噌を提供、しばらくぼんやりしていましたが、お米作るしかないわ、と 26 日に籾播きをしました。今日お茶の時間のころ揺れた震源地は千葉南部。どこの原発も止めたいです。

（2011 年 5 月 3 日）

速報！

英語教科書支援プロジェクト調印式（覚え書き交換式）

5 月 7 日（土）、Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School で Mr. Chu Senghour 校長と辻代表理事による、プロジェクト開始の調印式（覚え書き交換式）が執り行われました。この学校の生徒（約 1500 名）が使用する英語の教科書を、e-dream-s が支援することが決定しました。10 月から始まる学校の新年度に向けて、この教科書支援の取り組みを進めていきます。

他にも、奨学金プロジェクト、大学生や高校生の国際交流プログラムの可能性も大きく広がりました。次回の理事会で、具体的な活動を論議する予定です。

詳しくは後日報告します。

「覚え書き書」に署名する Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School の Mr. Chu Senghour 校長と辻代表理事

「英語教科書支援プロジェクト」の調印式（覚え書き書交換）を終えて、記念写真撮影（2011 年 5 月 7 日）

Akkak Moha Sena Bakdey Dejo Hun Sen Batheauy School：

Mr. Chu Senghour 校長、先生方

e-dream-s：

辻代表理事、中川副代表理事、井川顧問、塚本理事、飯田理事

編集後記：

カンボジア・プロジェクトが動き出しました！　私たちがカンボジアと繋がり、そこから生まれた思いを形にする時が来ました。 プロジェクト成功に向けて、全会員で協力していきましょう。（岡田かおる）